

センチピードグラス播種による早期シバ型草地化



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

○センチピードグラス播種で早期シバ型草地化

◎耕作放棄地を持続的に放牧活用するには草地化が必要となります。このとき草地の維持管理が容易なシバ型草地化が望まれます。

◎緑化用として導入されたセンチピードグラスは、播種するだけで他のシバ型草種に比べて容易にシバ型草地化できます(図1)。



センチピードグラス

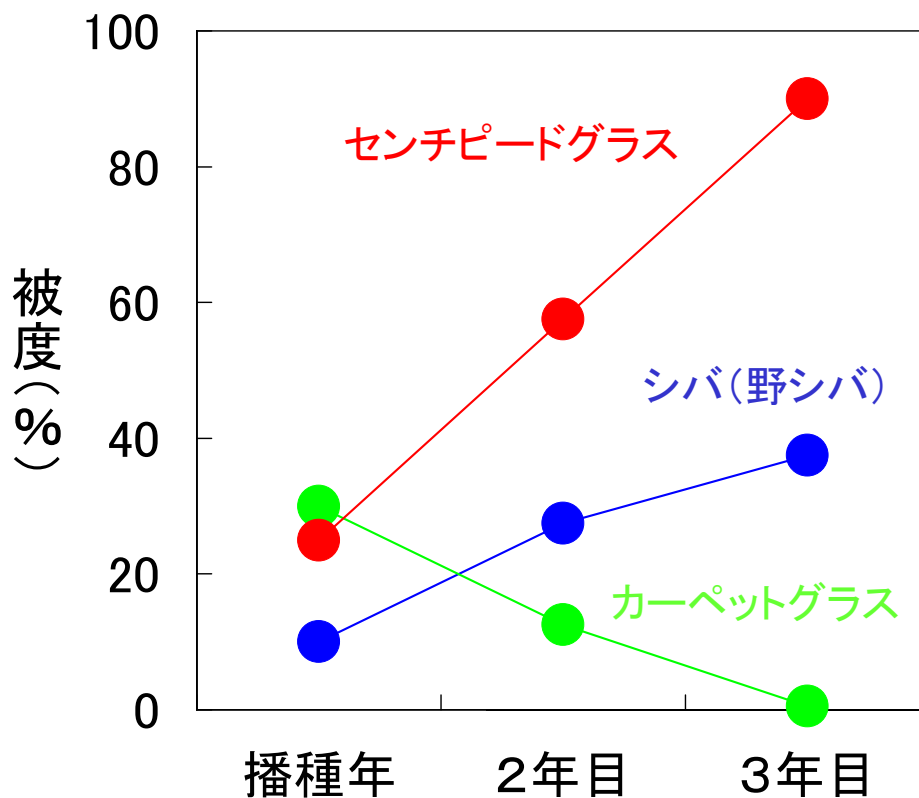


図1. 放牧地でのシバ型3草種の拡がり

北関東における調査結果。各草種とも播種量は2kg/10a, 6月下旬播種,各年とも秋に調査。

シバ型3草種を放牧地に播いてみるとセンチピードグラスがもっとも早く拡がります。カーペットグラスは、耐寒性が弱く北関東では越冬できませんが、温暖地ではセンチピードグラス同様に早期シバ型草地化に使用できます。

○少量播種でも3年後にはセンチピードグラス草地在確立

◎一般の牧草に比べ種子が高価なセンチピードグラスですが、少ない播種量でも2～3年で草地全体に広がります(図2)。

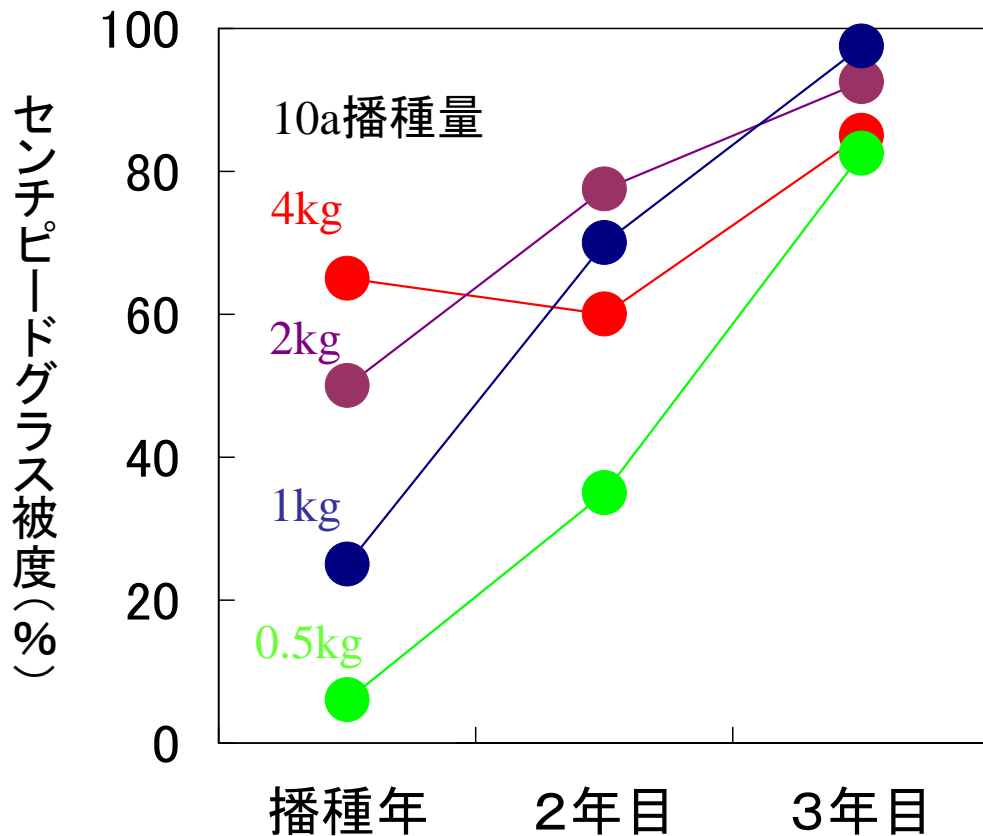


図2. 播種量が異なるセンチピードグラスの広がり

北関東における調査結果。6月中旬播種,各年とも秋に調査。

センチピードグラスは播種量が多いほど播種初年度は早く広がりますが、0.5から1kg/10aの少量播種でも3年後には被度が80%以上のセンチピードグラス草地在出来上がります。

センチピードグラスの播種は、放牧を行いながら6月頃に播種します。播種前は裸地が見られる程度まで強めに放牧を行うか、掃除刈りを行った方が定着がよくなります。播種後も放牧を継続し、雑草等の生育を抑えることでセンチピードグラスの定着を促します。



センチピードグラス草地在

○斜面の向きや傾きに適した播種量で効率的に草地を確立

◎斜面の向きや傾きによってセンチピードグラスの拡がりの速さは変わり、南斜面で傾きが緩いほど拡がりは速く、その程度は北斜面で傾きが急の場合の2倍です(図3)。この点を考慮して、センチピードの拡がりが速い地形のところで播種量を減らし、拡がりが遅いところで播種量を増やすことにより、経済的かつ効率的にセンチピードグラス草地が出来上がります。

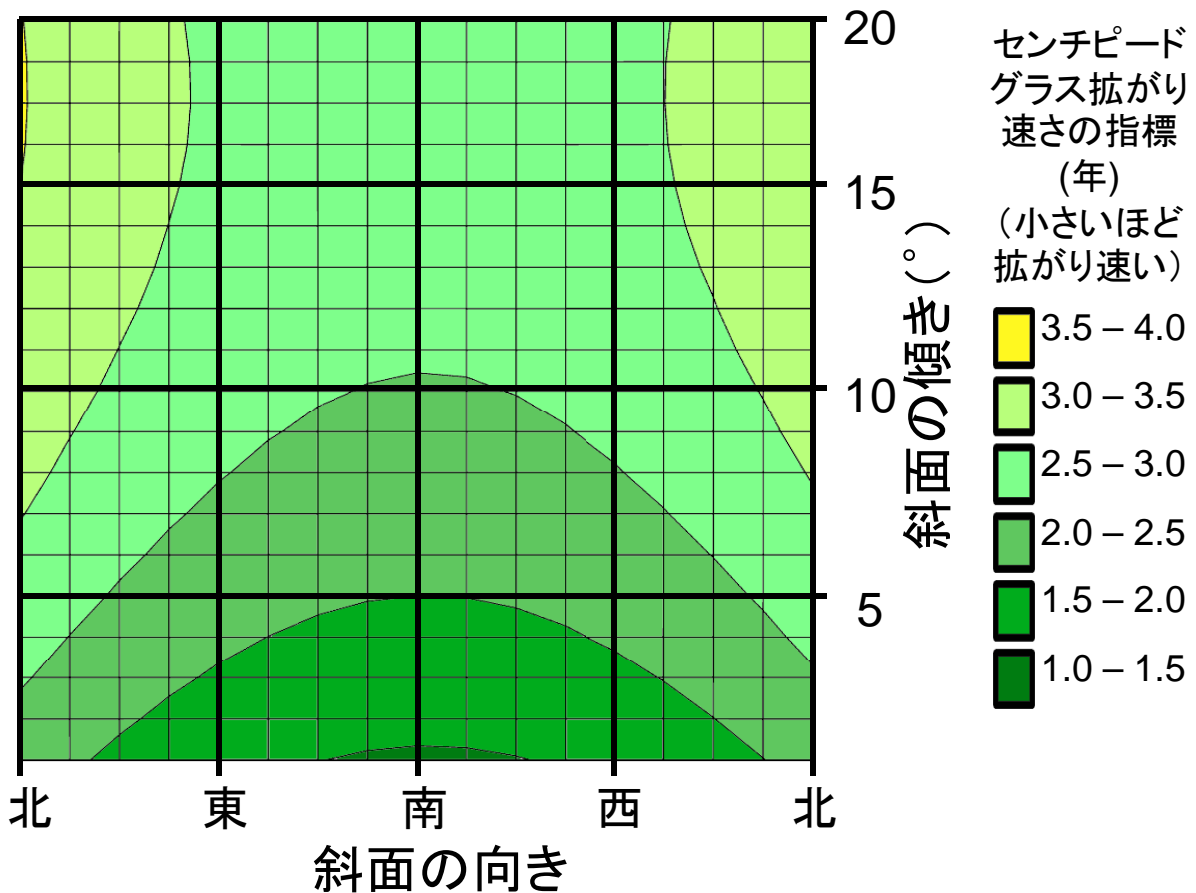


図3. 斜面の向きと傾斜に対する
センチピードグラスの拡がり速さ

北関東における調査結果。6月中旬に造成、斜面の向きと傾きの異なる61地点の広がりを5年間、春と秋に調査。造成後から被度最大になる期間の50%の年数を、拡がり速さの指標として記載。

お問い合わせ先

畜産草地研究所 放牧管理研究チーム

〒329-2793 栃木県那須塩原市千本松768 TEL:0287-37-7808